平成２６年度　新潟市総合学習部　活動報告

部長　藤﨑　直子（桜が丘小学校）

１　研究主題

子どもが自ら探究する総合的な学習の時間の創造
～子どもの確かな力を付けるための評価の在り方～

２　研究の概要

昨年度までは，子どもが自ら探究する姿を具現化するために「思考の可視化」をテーマに研究した。情報を整理・分析する場面において，思考ツールを学習活動に位置づけることで，話し合いが活発になったり，子どもの思考を深めたりすることを検証できた。しかし，子どもの姿を適切に評価できたかについては課題が残った。

今年度は，より一層子どもたちの主体的な学びをみとり，学習活動を改善するために評価をどのように設定していくかを追求していく。そこで，研究の副題を「子どもに確かな力を付けるための評価の在り方」として，「評価」に焦点をあてて研究することとした。まず，評価計画の作成の仕方，評価の場面や方法などの研修を中心に行い，評価に対する考え方を確認し合った。

３　研究の実際

○　７月　全体研修
　・評価にかかわる学習会
○　８月　全体研修
　・アグリパークの施設見学と体験活動
○　９月　全体研修
　・11 月の研究授業の内容検討
○１１月　研究授業
　・単元名　４年「外国の人から学ぼう」
　　授業者　松原　のどか 教諭（小針小学校）
　　指導者　新潟市教育委員会　学校支援課　指導主事　田代　孝　様
○１２月　全体研修
　・講演会　演題　「これからの総合部に期待すること」～評価を軸にして～
　　講師　　新潟市立新関小学校　校長　田村　篤　様
○　１月　全体研修
　・講演会　演題　「地域とつながる　地域をつなげる　」
　　講師　　支え合いのしくみづくりアドバイザー　　河田　珪子　様

４　成果と課題

○国立教育政策研究所から出されている「総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校）」を中心に「評価」の学習会を行った。それにより，全員で評価の機能や作成方法，評価規準の設定等改めて再確認し，研究の基盤を形成することができた。また，来年度の授業単元，研究方法，研修の方向性を見出すことができた。

●評価の観点の設定には，例示として３つの方法が国立教育政策研究所から示されている。それぞれの良さ，配慮事項がある。学習内容に応じて，評価の観点を設定する必要があり，その適正を検証することが今後の課題である。